

2026 年度 大阪大学 前期 世界史

(Ⅰ) (外国語・文学部共通)

問 1

大きく変化した自然環境に適応するため、道具が従来の打製石器から石斧や石臼などの磨製石器へと変わった。これによって人類社会は旧石器時代の狩猟や漁労、採集などを中心とした獲得経済から農耕や牧畜によって食料を生産する生産経済へと移行し、定住生活が始まって集落が形成され、織物や土器なども生産されるようになった。(152 字)

問 2

鉄製農具や牛耕農法の普及で農業生産力が高まり、耕作地が拡大した。また余剰生産物の増加により商工業や都市も発達し、余剰の青銅を用いた貨幣も流通した。さらに従来の氏族共同体や邑は解体され、小家族を単位とする農業経営が可能となった。一方、鉄器生産に必要な燃料の確保から森林伐採が行われ、華北の乾燥化も進んだ。(151 字)

(Ⅱ) (外国語・文学部共通)

問 1

ノルマン人のロロは北フランスにノルマンディー公国を建て、ノルマンディー公国の大公はイングランドにノルマン朝を、騎士は南イタリアに両シチリア王国を建てた。またノルマン人のルーシは、ロシアにリューリクがノヴゴロド国を、ウクライナにキエフ公国を形成した。さらにノルマン人は、グリーンランドや北アメリカにも進出した。(154 字)

問 2

イベリア半島のトレドやシチリア島のパレルモなどで古代ギリシア語やアラビア語の文献がラテン語に翻訳された。この結果、イスラーム世界で探究された古典古代の哲学や自然科学などの知識がヨーロッパに伝えられ、トマス＝アキナスがアリストテレス哲学を導入して大成したスコラ学や法学、医学などの発展に影響を与えた。(150 字)

問 3

ユダヤ教徒は、庇護民であるズィンミーとしてジズヤの納税を条件に信仰や自治が認められ、商業や金融、貿易などで活躍し、外交の担い手ともなった。(69 字)

(Ⅲ) (外国語学部)

問 1

ナポレオン 1 世による大陸制覇は、フランス革命で高まった国民意識を諸国に広める一方、フランスの支配に反発した人々は民族的自覚を強め、各地でナショナリズムが高揚した。このためプロイセンでは近代化を進める国政改革が、スペインでは民衆によるゲリラ闘争が展開され、ナポレオンのロシア遠征の敗北を受けて解放戦争が進展した。(155 字)

問 2

ウ

問 3

共産圏の封じ込めやアジア太平洋地域の共産化防止のため、アメリカの主導によりオセアニア諸国との太平洋安全保障条約や、東南アジア条約機構が成立した。またアメリカはサンフランシスコ平和条約で主権を回復した日本とは日米安全保障条約を、フィリピンや韓国、中華民国とも相互防衛条約を結び、安全保障体制の強化に努めた。(152 字)

(Ⅲ) (文学部)

問 1 エンコミエンダ制

問 2

元来はキリスト教の布教やインディオの保護を条件にスペイン国王が植民者に統治を委任する制度だったが、実際にはインディオは酷使され、彼らの反発を招いた。(74 字)

問 3

エ

問 4

征服者であったヨーロッパ人は植民地の先住民を自分たちより劣った野蛮な存在とみなし、自分たちの優れた法やキリスト教を先住民にも享受させることによって文明化しようとした。しかし、表面的には宣教師の活動に見られるようにヨーロッパ人の温情と保護に基づく先住民との良好な関係構築を前提としたが、実際には両者の関係は対等とは言えず、開発を進めたヨーロッパ人や本国の利益のために先住民を奉仕させるという強圧的な立場をとった。(205 字)